

令和5年3月

令和4年度 委員会活動達成状況点検・評価報告書

千葉県立保健医療大学

自己点検・評価委員会 自己点検・評価実施推進部会

目 次

共通教育運営会議	1
特色科目運営会	2
入試改革検討委員会	4
入試実施委員会	6
教務委員会	8
FD・SD委員会	10
学術推進企画委員会	12
学生委員会	14
進路支援委員会	15
研究倫理審査委員会	16
国際交流委員会	18
図書委員会	20
社会貢献委員会	21
自己点検・評価委員会	23
将来構想検討委員会	25
総務・企画委員会	27
広報委員会	28
衛生委員会	30
危機管理委員会	31
人事委員会	33
教員再任審査委員会	34
キャンパス・ハラスメント防止対策委員会	35

共通教育運営会議 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

1 目標
<p>現状の科目状況を把握・評価し、一般教養科目・保健医療基礎科目の充実をはかるとともに、新カリキュラムを作成する。</p> <p>初年次教育の充実をはかる。</p>
2 目標達成のための具体的な活動計画
<p>① 非常勤講師が担当する一般教養科目・保健医療基礎科目について、共通教育運営会議構成員が2~3科目ずつ分担して各科目 Teams の所有者として加わり、状況を把握し質の確保を検討する。</p> <p>② 3年次に進級できない、単位未修得者の状況を把握し、その要因を明らかにする（低学力が原因であれば、補習を促す）。</p>
3 目標達成度（自己評価）
<p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<p>達成事項</p> <p>① 一般教養科目、保健医療基礎科目において、対面授業が再開されたが、Web 上には、昨年同様に102の Teams が作成された。このうちの82科目は定期的に活用、3科目は一時的に活用と、全体の83%はITの活用を継続した。学長からの委託である「教養科目の見直し」にあたり、現状の問題点を Web 会議にて討議・共有し、教養科目ワーキングへ報告し、報告書作成につながった。</p> <p>② 令和3年度または令和4年度に、3年次に進級できない学生の状況について、会議にて情報を共有した(12月現在全学休学者14名のうち、1-2年次は5名)。</p> <p>その他：令和4年度は、5回の会議（初回のみ対面）、1回のメール審議にて、所掌業務（教養科目・保健医療基礎科目のとりまとめ、非常勤講師選考、体験ゼミナール科目責任者就任、高大連携に関する情報共有、放送大学単位互換科目選定（令和4年度受講生のべ14名））を例年通り遂行した。<u>マークシート方式による試験方法を取り入れ、非常勤講師による活用をフォローした。</u></p> <p>評価結果の理由と改善策</p> <p>一般教養科目38科目76コマ、保健医療基礎科目29科目29コマを、非常勤講師と専任教員により、滞りなく実施できた。新たな試験システムを導入し、また共通教育が抱える問題点を共有できた。業務は共通教育教務委員の負担が大きく、また共通教育が抱える問題を学科に共有することができていない。</p> <p>申し送り事項</p> <p>令和5年度、令和6年度教員の退職に伴う、科目の見直しと検証が必要である。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 対面授業が実施できるようになりましたが、8割の科目でIT (Teams) の活用を継続できたことは新たな教育方法を活用できたこと、非常勤講師が多いなか滞りなく一般教養科目と保健医療基礎科目が滞りなく実施できたなど、目標を達成できたと考えます。次年度に向けて委員会内での見直しと検証を引き続きよろしくお願いたします。</p>
委員長：島田美恵子
総括委員長：大川由一 面接日：2023年2月20日
自己点検・評価実施推進部会：北川良子

特色科目運営会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <p>患者・利用者中心のケアを促進できる人材育成をめざし、地域資源の活用によるサービスラーニング（体験ゼミナールや「ほい大健康プログラム」）を拡充する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる知識伝達の科目構成ではなく、自分自身の課題として感じ取れる素養を磨くことができる。 ・「体験ゼミナール」では自分の変化に気づくこと、「千葉県健康づくり」では日常生活の背後に用意された施策の意図に気づくこと、「専門職間の連携活動論」では専門職としての自分の位置に気づくこと、それぞれを行動目標として、振り返りの中の達成度と達成の確信度を指標とする。
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ・「体験ゼミナール」「千葉県健康づくり」「専門職間の連携活動論」について、今年度より対面の経験を積み重ねて学修に結び付けることができている。ただし、委員会が開くことが難しく作業部会との効果的な連携は測れず、情報共有の Teams を活用した授業運営の支援にとどまった。1学年全体を同時に可能な小集団学習の形態は難しいため、対面・遠隔それぞれのメリットを活かした体制を維持できた。 ・「社会実習」については、枠組みは決定したものの、学習者・受け入れ側双方の安全を担保する方策決定に至らず、実施を見送らざるを得ない。ただしすぐに実施できる体制を維持することは変わらない。（新ほい大プログラムについては特色科目委員会外での活動となっている） ・評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度「千葉県健康づくり」「専門職間の連携活動論」については、「体験ゼミナール」による協力団体との対面学習を積めないままの進行となっている。効果的な授業配置・修正を連携しながら行い、学習目標の達成に努める。本年度「体験ゼミナール」は、入学直後の素の状態、地域に赴きその場で起きていることを体験するという科目設置趣旨を活かし、対面の緊張感を根本的な「体験」へつなげるため再構成中である。過去の実践で学習者が感じた「地域から求められている」感覚の共有を目指すものとする。再度、特色科目独自の継続性・繋がりを意図した実践を目指す。 ・特に、1年生「体験ゼミナール」受講生にワクチン未接種の学生がいたため、訪問団体の決定が遅れ、訪問希望を取ったうえで遠隔希望の団体に限定した（学生からは苦情が出たことも把握している）。6月上旬訪問でリスク回避のためであったが、どのようにフォローできるかはわからない。 ・コロナ禍であるための制約の下で、できる限りの実践は展開するが、現行の2年生3年生については、十分な積み重ねができていない可能性があるため、十分に注意する。 ・年度目標を修正し、当初のR4の「サービスラーニング活動拡大」R5「20%以上単位取得」について、コロナ対応期間分の先送りが必要である。 ・申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> ・原則対面実施となっているが、訪問学習実現のためには、学生のワクチン接種の確認・および訪問団体側の受け入れ条件の確認（ワクチン接種要件）などが万が一のため必要になる。入試実施委員会と連携し、学生支援課から学校推薦型選抜入学予定者への書類配布の際に、入学後にはワクチン接種歴の提出が求められる旨の案内を依頼した。どちらにせよ入学前のワクチン接種状況の早期把握が必要になる。

<ul style="list-style-type: none"> ・「体験ゼミナール」の学生評価・アンケートも実態が異なっている（特定の学生たちだけが中心になったグループによる聞き取り学習になっている恐れがある）ため経年比較ができない。また、Formsによるアンケートで何度も回答を求めたが回答しない学生が出てしまった。 ・「社会実習（新はい大プログラム）」の開講については、1年次対面を経験していない上級生への再教育を含めた対応（感染対策・心構え再教育など）が必要になる。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>新型コロナにおける影響のある中、学生は対面での授業をすることで経験を学修に結びつけられたことは評価される。今後は訪問学習実現の際の制約に対応する方策の検討が望まれる。次年度は「社会実習（新はい大プログラム）」の開講について検討を進めていただきたい。</p>
<p>委員長：井上裕光</p>
<p>総括委員長：大川由一 面接日：2023年2月20日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子</p>

入試改革検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <p>①志願者確保の評価：学科専攻別に、昨年度の志願者の動向・課題を分析し、APに基づく学生確保のための志願者確保対策を検討する。</p> <p>②入試方法の評価：入学後の学生評価等を通して、入試方法の適切性について検討する。さらに令和2年度から実施の「調査書等を活用した新たな面接試験方法」の妥当性・適切性について評価する。</p> <p>③大学入学共通テストにおける利用科目の検討：令和7年度から導入される「情報Ⅰ」の利用及び従来の利用科目からの変更について6月に公表できるよう検討する。</p> <p>④編入学制度の検討：看護学科の編入学制度についての今後の方向性を検討する。</p> <p>⑤関連委員会と連携した志願者確保対策の推進：①②③の結果を入試実施委員会及び広報委員会と共有し、APに即した学生の確保に向けた課題を明らかにし、連携して取り組む。</p>
<p>1 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～5月：令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の利用について決定し、6月に公表する（目標③）。昨年度の志願者の動向を分析（目標①）し、教授会報告する（目標④）。編入学制度についての今後の方向性を決定する（目標④）。 ・7月～9月：昨年度実施した「調査書等を活用した新たな面接試験方法」を評価する（目標②） ・9月～1月：推薦枠拡大の結果評価の指標について検討する（目標②）。
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 昨年度の志願者数・志願倍率について、入試区分別・学科専攻別に分析し、その結果を資料にまとめ教授会に報告し、学校説明会等の広報活動での活用を促した。 ② 入試区分ごとのGPA・休退学者・国家試験合格率・就職状況を分析した結果、学科専攻により傾向が異なっていた。推薦枠拡大後の評価について討論した結果、上記の客観的評価指標により評価することとした。調査書等を活用した新たな面接試験方法は3月委員会で評価予定。 ③ 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」については、討議を重ね、本学が求める学生像、他大学の動向などから全学科専攻で選択科目として利用することを決定し、11月に大学ホームページで公表した。選択方法・配点についての委員会案を決定した。 ④ 令和6年度に入試改革予定であった編入学制度については、応募者数・入学者数は減少傾向にあるものの、合格基準を満たす入学者がいることから募集を継続し、志願状況、入学者の学習状況や進路を評価した上で、制度の見直しを再検討する方針を決定し、運営会議に諮り承認された。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>「情報Ⅰ」の利用について討議を重ねながら慎重に検討し委員会案を決定したこと、推薦枠拡大を評価する指標を決めたことは評価できる。</p> ・ 申し送り事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の選択方法および配点について、大学運営会議において決定次第できるだけ速やかに、遅くとも次年度6月までには公表する。 ② 推薦枠拡大による学生確保への影響を令和4年度卒業生の学習状況等から評価する ③ 「調査書等を活用した新たな面接試験方法」についての評価を継続する。

④ 求める学生像について（特に、大学入学共通テスト「国語」の利用範囲、APの見直しの必要性）検討する。
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 （理由） 目標達成に向けた活動が計画的に着実に進められている。志願者確保及び入試方法の評価、検討は大学にとって重要事項と考えます。今後とも的確な評価、検討をお願いします。
委員長：浅井美千代
総括委員長：大川由一 面接日：令和5年2月21日
自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介

入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <p>①本学のアドミッションポリシーに沿った学生を選抜するための一連の入試業務を公平・公正に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試実施業務：特別選抜・編入学試験・一般選抜・大学入学共通テストそれぞれが確実に、かつ効率的に実施されるよう、各段階における作業手順を見直し、実施要領を更新する。昨年度より変更した採点結果の入力と確認の方法について、より効率的な方法を検討する。 入試問題作成：作問者への問題作成依頼、作成された入試問題の校正を実施し、適切な入試問題・解答用紙・採点基準を作成する。 <p>②今年度、県立高校にて導入される予定のインターネット出願について、本学での導入に必要な手続きを進め、令和5年度から実施できるよう準備する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>■入試実施業務について</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月：入学者選抜要項の完成・配布 7月：特別選抜・編入学試験 監督者・面接者等の人選 9月：特別選抜・編入学試験 募集要項の完成・配布 10月：特別選抜実施要領・監督要領の完成・配布 11月：一般選抜学生募集要項の完成・配布 一般選抜試験 監督者・面接者等の人選 特別選抜試験・編入学試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート 1月：一般選抜試験実施要領・監督要領の完成・配布 2月：一般選抜試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート <p>■入試問題作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月末：今年度入試問題作成担当者の選出・依頼 7月～10月：特別選抜試験・編入学試験問題の校正 11月初旬：特別選抜試験・編入学試験問題の完成・印刷 11月～2月：一般選抜試験問題の校正 2月初旬：一般選抜試験問題の完成・印刷
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①入試実施業務（特別選抜・編入学試験、一般選抜試験） <p>特別選抜・編入学試験の実施については、編入学試験の専門科目試験と小論文試験の間が短く煩雑であるという意見をふまえ、それぞれ主任監督者を配置することで対応した。事前の監督者説明会を実施し無事に終了することができた。また、文科省からの不正行為防止への対応の要請を受け、各選抜試験において、ウェアラブル機器の扱いも含め防止策を検討し、実施要領・監督要領に追加した。採点業務の効率化をはかるために導入した自動計算シートについても、昨年度の意見をふまえ改良版を作成し、円滑な採点をすることができた。</p> <p>大学入学共通テストは東都大学との共同開催にて実施し、大きなトラブルなく終了することができた。</p>

②入試問題の作成

昨年度同様、特別選抜試験・編入学試験・一般選抜試験において、それぞれ正・副2問の作問を依頼した。入試実施委員長・副委員長・委員長指名の入試実施委員の3名で校正を担当した。昨年同様にオンラインにて、作問者と校正者との間で意見交換を行い、検討を進めた。過去の入試問題について外部業者の評価を受け、その結果について作問者に周知した。

③インターネット出願については県立高校での導入を受け、令和5年度から導入の見込み。

・ 評価結果の理由と改善策

各入試や大学入学共通テストのいずれも、事前に実施要領を作成し説明会を開催して留意点を周知することにより、公正な入試を実施することができた。入試問題に関しても、適切な問題作成をすることができ、ほぼ目標通りの成果と評価した。

改善策として、入試後アンケート結果も含めた入試実施業務の詳細を蓄積しつつ円滑な引き継ぎを進め、入試業務が確実に実施されるようマニュアルを構築することが必要である。

・ 申し送り事項

インターネット出願に伴い、各選抜試験の募集要項の見直し（特に受験生への周知内容と方法について）が必要である。

入試問題の作成については、定期的にFDを実施し、入試問題作成の考え方や業者評価の共有を行うことが有用と思われる。さらに、問題校正のマニュアル等を整備し、校正担当者が変わっても適切な問題作成に向けた検討がなされるような工夫が必要である。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

スムーズな入試業務が行われており、目標達成に向け着実に活動できている。次年度以降インターネット出願の整備を期待します。引き続きよろしくおねがいたします。

委員長：河部房子

総括委員長：大川由一

面接日：2023年2月21日

自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

教務委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> with/after コロナの状況下での自己主導型学習（アクティブラーニング）の推進 授業評価アンケートの実施方法および質問項目の検討・回答率向上 ICT教育の実践と検証 f-GPAを活用した学生の自主的な学修管理体制の構築 現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正の検討
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> with/after コロナの状況で、遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業継続が予想されることから、遠隔授業を含めたアクティブラーニング型授業に関するFDセミナーの開催 R3年度はコロナ禍で、Formsにて調査を実施したが、回答数が減少した。R4年度は、十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、対面/紙媒体による調査方法も併用して実施する。また、質問項目の精査および再検討を行う。 授業形態別（対面・遠隔）の実情に着目した「授業および学習環境を含めた学生・教員アンケート」の実施 学生・教員の双方が、GPA制度の趣旨について理解の促進を図る取り組みの検討と、GPA分布および平均値に関する将来的公表の是非に関する検討 R4年度（新々カリ）卒業生を対象とした卒業時アンケートおよび教員授業負担調査の実施
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 目標1および3について、ICTを活用した教育方法のレベルアップを目的に①Office365を活用した授業デザイン②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方をテーマに、学内教員講師による遠隔動画配信（Teams）を実施した。新任教員を含め、いつでも振り返り繰り返し確認できるよう、当該Teams内に現在も動画は継続配信中である。 目標2では、授業評価アンケートの質問項目について検討し、内容および回答のしやすさ（質問数）、経年変化を見る観点から現状維持とした。今年度もFormsを用いて実施したが、昨年度の反省から、アンケートFormのQRコードの提示と用紙を使用しての調査を実施した。後期分は実施中だが、前期回収率は1割増加することができた。また、大学機関別認証評価においても、“教育の質及び学習成果の向上に繋げている”とのコメントを得ることができた。 目標4および5について、令和4年9月の大学設置基準の一部を改正する省令の交付を受け、委員会内で学則改正の要否も含めて議論・検討し、特に単位の計算方法、授業形態については一体的な検討が必要であることを委員会内で共通認識を持つことができた。大学全体としての共通認識をはかるべく、改正事項の整理を引き続き行い、関係各部署とも連携し、必要に応じて来年度以降の学則改正を目指す。また「成績評価の異議申し立て」制度について検討し、規程および様式を策定した。この制度の趣旨について、適切に運用するべく、教員・学生両者への丁寧な説明を尽くし、次年度より実施予定である。 教員授業負担調査を8月に実施し、人事委員会に結果を提出した。既存の調査内容と概ね同様の内容としたが、説明や計算方法の整理することができた。目標5について、卒業時アンケートでの結果把握（本学での大学生活と授業について）と、カリキュラム開発・教育アセスメントについて、外部講師を招いて教員向けFDを実施予定で、アウトカム基盤型教育の考え方についても学ぶ機会を提供する予定である（2023年3月17日）。 評価結果の理由と改善策 <p>大学機関別認証評価受審に向けて、委員会内で現状の整理と改善すべき事項を洗い出し、一部課題事項（成績評価の異議申し立て制度の検討など）について改善することができた。</p>

<p>今後の課題として、大学設置基準の一部を改正する省令交付にかかわる学則改正、カリキュラム改正の是非について継続的に審議していく必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送り事項 大学機関別認証評価での評価コメントをふまえて、成績評価における基準の明示化の検討。大学設置基準一部改正にかかわる改正事項の整理と関係各部署との連携、必要に応じて学則改正の是非についての検討とそのFDの開催。「成績評価の異議申し立て」制度の適切な運用と学生・教員両者の共通認識をはかる。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>ICTを活用した教育体制の整備や授業評価アンケートの回収率の向上など計画通り進められている。成績評価の異議申し立て制度を策定され、運用にむけた準備をされたことも評価できる。成績評価の基準の明示など継続的に取り組まれることが期待される。</p>
<p>委員長：谷内洋子</p>
<p>総括委員長：大川由一 面接日：2023年2月20日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉</p>

FD・SD委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するシステムの構築（FD・SD委員会主導型として計画する）</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献 : FD・SDを企画・実施（レベル2程度）の促進 2. 教育 : 新任教員向けの講習会（レベル2程度）・教員向きの講習会（レベル3程度）を企画・実施の促進 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上<目的；科研費申請率アップ>（レベル2）・研究倫理の理解の講習会（レベル3）の企画・実施 4. 管理・運営：ハラスメント予防のための講習会（レベル1）・危機管理の講習会（レベル3）・相談員向けの講習会（レベル3）の企画・実施 5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施。（FDSD開始参加人数と満足度のみフォームで調査） 6. 検討課題として、SDを中心に活性など目標に総務企画課長とする
<p>3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 2021年度作成のFD・SDマップに則して、2022年度の工程表（コースアウトライン）を作成し、概要検討・内容決定、各委員会に依頼開始・実施できた。 1. 社会貢献 : 情報を公開する手法（レベル2）「行政と連携した、大学の新しい役割」千葉大学病院 次世代医療構想センター長 吉村健佑（中講義室 2022年5月10日参加人数52名/全教員）社会貢献委員会実施 2. 教育 : 新任教員向けの講習会（レベル2）「ICTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り①Office365を活用した授業デザイン-with コロナ：学内教員による講演②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方と探索-コロナ収束後を見据えて」2022年2月28日より継続し遠隔動画配信（未定/全教員）教務委員会実施 : <複雑な事象に対応できる指導・管理的能力を養う>カリキュラム開発・教育アセスメントについて（レベル3）「教育アセスメントおよびカリキュラム開発について」俣木志朗先生、日本歯科大学生命歯学部（中講義室 2023年3月17日（金）（未定/全教員）教務委員会実施 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上<目的；科研費申請率アップ>（レベル2）「科研費の最近の動向」文部科学省研究振興局学術研究推進課 林史晃（youtube 視聴 2022年7月30日配信）学術推進実施委員会実施 「科研費申請の戦略的アプローチ 2022年度版」ロバストジャパン株式会社 中安豪 youtube 視聴 2022年7月30日配信）学術推進実施委員会実施 「公立大学が活用できる外部資金制度について」山陽小野田市立山口東京理科大学研究推進部 塩満典子（youtube 視聴 2022年7月30日配信）学術推進実施委員会実施 「大学の教育・研究活動の国際展開 千葉大学教授 織田雄一（大講義室 2022年6月29日 36人/教員全員、満足+やや満足=89%）学術推進実施委員会実施 : 研究倫理の理解の講習会（レベル3）「（仮題）「近年の本学における研究倫理審査の変更点について」」予定：2023年3/14（火）Teams開催（予定）（未定/全教員）倫理委員会実施 4. 管理・運営：基礎的知識と基本的スキルを備える（レベル1）<ハラスメント予防について> 「1. ハラスメントの法的問題について 松本・山下総合法律事務所 弁護士 山口祐輔. 2. ハラスメントの対応と予防 他機関ハラスメント外部相談員前田昭子.」

2022年12月26日49人/教職員 満足+やや満足=89%) キャンパス・ハラスメント委員会実施

: 自大学の理解(レベル1)「大学の成り立ちと人材育成の目標」2022年4月実施(新入教員対象)学長実施

: 相談員向けの講習会(レベル3) <相談員向けの研修計画実施・相談員ミーティングを定期的開催>「キャンパス・ハラスメント防止対策委員会学外委員による相談員向けオンライン又は対面で研修会を開催」2023年3月に対面で実施予定(未定/相談員) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施

: 各実施したFD・SD報告書とFD・SDアンケートの書式統一し、提出の方法について実施はできた。現在、実施中であるが来年度教職員に周知とアンケート回収など効果的な方法を検討したい。

6. SDを中心に活性など目標の検討: <地方・教育公務員としての基礎知識>(レベル1)「倫理規定・人事評価について(検討中)」「公立大学の学校事務について」事務局 SDを中心に活性など目標に企画運営課長中心に検討(実施)し促進できた。

当初2年間の完成目標をたてて段階的に「FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は、ほぼ目標通り達成された。

・ 申し送り事項

2022年度作成のFD・SDマップに則して、2023年度FD・SDマップの再検討と2023年度FD・SD年度計画(コースアウトライン)の検討。

FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などのシステム構築と運用の徹底化とその実施。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要(理由)

当初の計画通りにFD・SDを開催することができた。また昨年度課題に列挙されていたFD/SDアンケート方法の改善についても統一した書式で実施することができ目標達成できたと考える。FD・SDに関するシステム構築につきまして引き続きご検討の程よろしくお願いたします。

委員長: 岡村太郎

総括委員長: 大川由一

面接日: 2023年2月24日

自己点検・評価実施推進部会: 北川良子

学術推進企画委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の学術推進、研究活動の活性化を行う。 2. 「学内共同研究」の募集を行い、公平・公正な審査を円滑に実施する。 3. 外部資金、特に科研費の獲得を推進する。 4. 紀要の編集・発行業務を円滑に行う。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>本学の学術推進、研究活動の活性化を行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学術・研究に関するイブニングセミナーの企画、実施、報告。 2. 「<u>学内共同研究</u>」の募集と公平・公正な審査を実施する <ul style="list-style-type: none"> ・「学内共同研究」の募集と審査の実施。・学内共同研究費の使い勝手向上に関する検討。・研究成果の外部公表の検討。県の施策と関連する研究の実施と、将来構想委員会との連携による研究成果報告事業の検討。 3. <u>外部資金、特に科研費の獲得を推進する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標：科研費など外部資金および学内共同研究の申請率 80%、科研費採択率 30%・科研費の申請・採択に資する FD(イブニングセミナー)の企画・実施。 4. <u>紀要の編集・発行業務を円滑に行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の円滑な編集・発行と査読者情報の登録、修正。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>達成事項</u> 1. <u>本学の学術推進、研究活動の活性化を行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はイブニングセミナー(本委員会主催の FD)を 4 回開催した。第 1 回は研究活動の国際展開をテーマとしたもの(外部講師)、第 2・3・4 回はいずれも動画のオンデマンド視聴による科研費等外部資金の獲得ノウハウをテーマとしたものであった。FD・SD 委員会へ開催報告を行った。 2. 「<u>学内共同研究</u>」の募集を行い、公平・公正な審査を円滑に実施する <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からこれまでの 3 つの研究区分のうち萌芽研究を廃止し、一般研究と若手研究のみとし、申請者・審査者の負担減を図った。・令和 5 年度学内共同研究の募集を行い一般研究 8 件、若手研究 1 件の応募があった。応募数は例年と比べやや低調であった。・ながらく学内共同研究費予算のなかで、備品費の予算が少額であり、結果として各採択課題へ配布する額も少額となるため研究課題が採択されても遂行に支障をきたしているという指摘があった。全教員へアンケート調査を実施し、集計結果を説明資料として県へ備品費への配分増などの要求を行った。・本委員会は令和 4 年度重点施策目標のひとつに「県などの健康施策と関連する実践研究の支援を学内共同研究でも推進すること」を挙げており、学内共同研究の「応募趣旨」に「千葉県が求める健康づくり施策に関連した実践的な内容であること」を新設した。・計画に挙げた通り学内共同研究発表会を開催した(以上、学内共同研究審査部会)。・研究成果の外部公表については学内共同研究の抄録を紀要に掲載し J-stage 上に公開を予定している。県施策関連の研究課題の実施と報告事業は、本委員会が所掌する学内共同研究について、来年度以後に同趣旨で採択された研究課題について「将来構想に係る情報共有会」などで報告する。 3. <u>外部資金、特に科研費の獲得を推進する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・前述のとおり科研費獲得促進をテーマとするイブニングセミナーを 3 回開催した。令和 5 年度科研費など外部資金および学内共同研究の申請数(率)は、申請の資格を有する者 53 名の

<p>うち申請数 40 名 (75.5%) であり、令和 4 年度の同 44 名中 38 名 (86.3%) より低下し数値目標の 80% も下回った。令和 5 年度科研費採択率は結果を待っているところである。一部の学科で実施されてきた、講師・助教を対象とする支援教員(教授)による科研費等の申請書作成の個別支援を全学的に導入した。科研費など外部資金獲得(申請書作成など)や研究遂行段階(資金管理等)における研究支援業務(URA 業務)の外注を目指し県へ予算要求を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> *科研費などの申請を有するもの：教員総数から、今年度末退職・休職中・科研費を取得しており来年度以後も研究継続・最終年度だが来年度延長申請した各教員数を減じた数 <p>4. 紀要の編集・発行業務を円滑に行う</p> <p>令和 4 年度紀要に論文 10 編(原著 1 編、報告 5 編、資料 4 編)の投稿があり全編採択とした。これらに加え学長による巻頭言、学内共同研究抄録 14 編、学長裁量研究抄録 10 編、医療整備課との取組報告会抄録 1 編の掲載を予定している。開学以来紀要の J-stage へのアップロードが課題であったが、令和 3 年度分から順次再開した(以上、紀要編集部)。</p> <p>評価結果の理由</p> <p>学術・研究に関するイブニングセミナーの開催、学内共同研究の公正・公平かつ円滑な審査、共同研究費の使い勝手向上に関する検討、科研費の獲得推進を目的とした取り組み、紀要の円滑な発行については目標を達成できたと考える。科研費等外部資金および学内共同研究の申請率は目標数値未達であった。科研費採択率は採択結果を待っている。県施策関連の研究課題の実施と報告事業については、来年度以後に同趣旨で採択された学内共同研究の研究課題について「将来構想に係る情報共有会」などで報告したい。</p> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 科研費など外部資金および学内共同研究の申請率と科研費採択率については来年度も数値目標を掲げ、目標達成にむけた対策を講ずる。すなわち科研費申請に関する FD、講師・助教対象の支援教員(教授)による科研費等の申請書作成の個別支援、学内教員による過去の科研費研究計画調書(採択されたもののみ)の学内提供(閲覧)、県予算が認められれば外部の研究支援サービスの利用、などを開始・継続する。<u>また採択・実施された学内共同研究課題についてその後外部資金獲得や論文化やなど実際の成果に結びついているか、アウトカムの検証を行う必要があると考える。</u> <p>申し送り事項</p> <p>上記の改善策に挙げた対策の継続。特に採択・実施された学内共同研究課題のアウトカムの検証について、具体的な検証手順を定め、実際に検証を実施する段階まで進めたい。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>FD 開催、学内共同研究の審査ならびに研究費についての検討、紀要の発行等、円滑に実施されており目標は概ね達成している。外部資金、特に科研費の獲得については FD の開催、支援教員(教授)による個別支援など対策を講じていて評価できるが、今後はさらなる申請率と科研費採択率の増加を目指し検討を進めていただきたい。また、引き続き県施策関連の研究成果の報告事業の検討をお願いいたします。</p>
<p>委員長：太和田暁之</p>
<p>総括委員長：大川由一 面接日：2023 年 2 月 21 日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子</p>

学生委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の方針（ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善 ・卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>学生支援計画を 11分野 で作成しリーダーを中心に活動（評価指標：適切な実施の可否）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学習環境の点検。 ② 学生会：イベント開催の支援 学長・学生懇談会の開催 ③ いずみ祭：いずみ祭開催を支援。 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：今年度の学生担当者を設定し管理継続 ⑤ 売店・自動販売機：自動販売機 無人販売機の状況把握 ⑥ 卒業式：卒業写真の手配。卒業式進行への補助 ⑦ 学生対象セミナー：昨年と同じテーマで2回 Web 開講。 ⑧ 同窓会：学科別の同窓会長への支援、情報交換。 ⑨ 学生からの相談内容把握：学生相談アンケート2回実施 ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：入構可能な時期は、整頓状況を確認。 ⑪ 後援会：理事会への出席。大学の状況報告、保護者との情報交換、後援会学生支援補助
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：後援会より支援を受け、仁戸名キャンパスの実習室の椅子やブランドの整備。ポット、電子レンジ、プロジェクターなど学生福利品補充 ② 学生会：新入生歓迎オリエンテーション、スポーツ大会、懇談会、サークル活動支援。 ③ いずみ祭：第14回いずみ祭を4年ぶりの対面により学科ブースとステージ企画で実施 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：新担当者を決定し学生による管理継続 ⑤ 売店・自動販売機：売店に関するアンケート実施し、学生のニーズを把握し委員会で共有すると共に可能な限り学生の希望の商品を販売してもらうようにした。 ⑥ 卒業式：卒業写真撮影の手配 ⑦ 学生対象セミナー：視聴数はやや昨年を上回った。開催時期要検討 ⑧ 同窓会：学科別同窓会の動向を把握。同窓会会長による代表者 WEB 会議を開催 ⑨ 学生からの相談内容把握：学生相談アンケートを前後期と2回実施。 ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：入構可能な時期は、整頓状況を確認。 ⑪ 後援会：総会、理事会の開催を支援。加入者を増員させる対策の支援。 <p>評価結果の理由と改善策</p> <p>4年ぶりとなる対面でのいずみ祭開催支援はじめ、各委員が学生生活の充実を目的として、分担の業務に取り組んだ。キャンパスハラスメント委員会と共催して動画を作成・配信するなど、一部の活動は、委員会間で連携したとりくみであった。</p> <p>申し送り事項</p> <p>学生支援を引き続き継続する。学生・卒業生のニーズを把握する。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）コロナウイルスの感染状況や基準が変化していく中で、学生の活動も変化するが、委員会として柔軟に活動できており、目標に向けた活動が実施できていきる。引き続きよろしく願います。</p>
<p>委員長：島田美恵子</p>
<p>総括委員長：大川由一</p>
<p>面接日：2023年2月20日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：酒井克也</p>

進路支援委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

1 目標	<p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100% (全学科) をめざし、学科専攻と連携を図り大学全体として取り組んでいく。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響を把握し、4 年生への適切な情報提供を行うとともに、学生が活用しやすい進路支援方法を検討する。</p>
2 目標達成のための具体的な活動計画	<p>年度当初に、国家試験受験対策および就職進学 (県内就職促進) 支援の年間計画を学科ごとに作成し、委員会開催時にそれぞれの進捗状況を報告し、学科間で情報共有し、討議し、次の活動へのヒントとする。主に 3 年次生を対象としたキャリアセミナー年間 3 回、ジョブカフェを年間 3 回実施する。</p>
3 目標達成度 (自己評価)	<p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な成果</p>
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項	<p>達成事項</p> <p>① 年度当初に作成した進路支援計画は、全学および各学科・専攻ごとに、実施できた。</p> <p>② 全学でのキャリアセミナーは例年通り 3 回実施した。全体セミナーは、新型コロナウイルス感染防止策をふまえた対面方式で実施した (第 1 回 126 名 第 2 回公務員対策 71 名 第 3 回 3 月 14 日実施)。全学年に開催をアナウンスした (参加者の 13.4% は 1・2 年生であった)。</p> <p>③ 各学科専攻によるセミナー (第 1 回 1 部および 2 部 第 2 回) における学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。対面・オンデマンド両方の方法を工夫しながら、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施された。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。例年、閲覧数の多い、学生が記録を残す就職活動報告書は、いつでも閲覧できるように支援室設置の紙媒体から PDF 化してサーバー上でも閲覧が可能な状態とした。</p> <p>⑤ 昨年より実施している「ジョブカフェ」の参加人数が昨年度より増加し、参加者は満足したと回答している (9 月 19 名。11 月 8 名 3 月 8 日実施予定)。</p> <p>評価結果の理由と改善策</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大状況においても、全学および各学科・専攻で例年通りの進路支援事業が実施できた。また、今年度は「進路に関する報告」の提出率が高く、12 月時点で 74% の内定が確認されている。県内就職率は 12 月現在 71% である。</p> <p>申し送り事項</p> <p>引き続き、新型コロナ感染症対策を考慮した進路支援計画を作成し実施していく。特に公務員試験対策において、営利を目的としない学外講師を選定する必要がある。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	<p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由)</p> <p>感染防止策を講じつつ、キャリアセミナーやジョブカフェなどを計画通り開催し、進路支援活動を進められている。県内就職の推進や国家試験合格率向上のための継続的な活動が期待される。</p>
	委員長：島田美恵子
	総括委員長：大川由一
	面接日：2023 年 2 月 20 日
	自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

研究倫理審査委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <p>① 研究倫理審査委員会での倫理審査のあり方を改善するための委員会の運営法の検討。</p> <p>② 昨年度から継続しているリモート研究の指針とデータの収集と管理の指針の整備。</p> <p>③ 研究倫理審査に関する FD を FD/SD 委員会と連携して実施を目指す。</p> <p>④ 毎月の委員会での研究倫理審査業務を着実にを行う。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①、④については毎回の委員会での倫理審査を通じて議論・実行していく。</p> <p>②については他大学の動向などを参考に、昨年度作成した指針案の内容について再検討する。</p> <p>③は昨年度実施の研究倫理に関する FD でのアンケート結果などを参考に委員会内で内容を詰める。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 研究倫理審査委員会での倫理審査のあり方を改善するための委員会の運営法の検討提案されたいくつかの運営改善案を検討し、以下の変更を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 各申請の担当者決定のプロセスの変更 2) 審査結果通知書の電子化 ② 昨年度から継続しているリモート研究の指針とデータの収集と管理の指針の整備 今年度の各倫理審査申請を審議する過程で「リモート研究の指針」と「データの収集と管理の指針」について検討した。その結果を文章化したものは公表することはできなかったが、個々の申請の審議に反映させた。また、3月のFDにおいてこれに関する変更点を内容に含め告知する予定である。 ③ 研究倫理審査に関するFDをFD/SD委員会と連携して実施を目指す 内容は決定済みで3月にFD実施予定である。 ④ 毎月の委員会での研究倫理審査業務を着実にを行う 今年度申請された案件はすべて処理することができた。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ①はいくつかの変更案の中で、実際に2つの変更を実行できた。 ②はリモート研究についてはなお他大学の動向を見守りそのうえで本学の方針を定める。 データについては現在検討中の全学の研究データ管理についての方針の内容とすり合わせて公表する。どちらも現状についてFDで公表する予定である。 ③は本年3月に実施できる予定である。 ④は着実に実行できた。 ・ 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> ②の「リモート研究の指針とデータの収集と管理の指針の整備」については次年度も継続するのが望ましいと考える。 また、来年度新設される研究インテグリティについての部会への対応が必要となる。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>

(理由) リモート研究の指針の検討など目標達成に向けた活動が着実に行われた。次年度以降もリモート研究の指針とデータ収集と管理の指針については引き続き検討の程よろしく願いいたします。

委員長：加瀬政彦

総括委員長：大川由一

面接日：2023年2月21日

自己点検・評価実施推進部会：北川良子

国際交流委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標 国外との国際交流活動（学生を含む）の活性化を行う。 国内での国際交流活動の活性化を行う。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 韓国 Inje 大学との交流は、2021 年度は教員間でのシンポジウムを行ったが、2022 年度は Zoom など以学生間での交流ができないか検討を行い、先方の意向を打診するなど今後に繋げる。また、韓国以外の国際交流についても実施できるように活動する。 5 月頃：韓国以外の国際交流について実施可能か学長に打診する。 6～7 月：学生間での交流について、内容などについて各学科専攻で案を出していただきとりまとめる 9 月頃：Inje 大学に打診</p> <p>2) 本学と神田外語大学との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」を 2022 年度に開催するべく協議を進め、委員会としてバックアップする。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 国外との国際交流活動計画は行うことができなかったが（活動計画 1）、国内での国際交流活動の活性化については現在進行中で、本学と神田外語大学との共同開催による「第 2 回初期医療言語サービスボランティア研修」を 2023 年 3 月 12 日（日）に本学にて開催予定で、2 月 16 日から参加者申し込みを Forms にて行っている。 ・ 評価結果の理由と改善策 Inje 大学との交流については、昨年度末（2022 年 3 月）にシンポジウムを開催し、受講後アンケート調査等も行ったが、その後、委員長の教育業務増加により Inje 大学への打診等を行うことができなかった。Inje 大学との交流については、本大学側が主導しないことには進まないため、来年度、積極的に連絡しつつ新たな交流方法を考えていく必要があると思われる。 ・ 申し送り事項 Inje 大学との交流については、先方の意向をお伺いしつつ、計画を立てる必要がある。特に科目として考える場合には、教務委員会など他の委員会との協議や大学の承認も必要となることを念頭に計画してください。 神田外語大学との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」については、第 1 回（2019 年）は神田外語大学が消耗品費等全て（約 9 万）支出された。第 2 回（今回）は、神田外語大学から全額負担は難しく折半の要求があり、使用予定の約半額の 43,230 円（トレーニングパット 5 枚、靴カバー分）を購入していただき、足りない分は看護学科に現在あるものを使用し、R6 年度の予算で看護学科に返却する（約 46,000 円）ことになった。R6 年度の予算請求をお願いします。今後、3 回目を開催するかどうかは、まずは消耗品費をどのようにするかなど検討してから、開催計画をされた方がよいかと思われます。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由)</p>

学生の国際交流の機会の実施に向けて、引き続き検討をお願いします。神田外語大学と共催の「初期医療言語サービスボランティア研修」は計画通り実施されている。活動が着実に実施できますよう、今後の計画を踏まえた必要な予算の検討をお願いします。

委員長：石川裕子

総括委員長：大川由一

面接日：2023年2月21日

自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介

図書委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

1 目標
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナーなどのセミナー、ガイダンスを実施し、図書館の利用促進、学生の文献検索能力向上につとめる。 ・学生の学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。
2 目標達成のための具体的な活動計画
<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を年3回(昨年度リモート会議3回と臨時会議があり4回の開催)から年6回に増やして、図書館の利用促進に向けた取り組みやコロナ感染の警戒レベルに合った利用方法について即応していく。
3 目標達成度 (自己評価)
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <p>上記目標の2点は、コロナ感染状況レベルに応じて即応するよう、昨年来マニュアルを作成し、それに準じて対応してきた。その点では、学生が不利益を被ることなく、図書館利用ができた。その成果として、図書館利用状況では幕張で入館者数が前年比300%強の26,600人、貸し出し数120%の3,700冊、仁戸名で入館者前年度同比率105%の2,900人、貸し出し数1,000冊となり、複写や相互利用は例年度並であった。</p> <p>また、図書館による検索セミナーは年2回開催されている。</p> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>年3回の委員会開催からリモート会議を含め、年6回の開催目標を掲げたが、コロナ感染状況の落ち着きもあり、リモート会議は実施しなかった。その代わりに、書籍購入や除籍等の連絡事項はメールを介して依頼をするなどの対応をとった。</p> <p>故に、会議の回数は4回(3月を含む)となった。</p> ・ 申し送り事項 <p>図書委員会開催等は概ね、良好に運営されている。しかし、今後の課題として、定期購読雑誌の購読再検討(書架容量の不足による)が必要であり、継続審議とする。</p> <p>また、学生の卒業研究論文集における著作権譲渡を検討する。</p> <p>(※各学科・専攻で卒業研究論文の取り扱いに関する考え方が異なるものの、学生のポートフォリオを考えた場合には必要不可欠な物であり、継続して検討する必要がある。)</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要(理由)
<p>新型コロナウイルスの影響にも対応し、図書館利用状況が促進されたことから目標が達成したと評価する。今後、卒業研究論文集における著作権譲渡など検討をお願いいたします。</p>
委員長：三和真人
総括委員長：大川由一
面接日：2023年2月20日
自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

社会貢献委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <p>(ア)外部講師による FD を企画し、本学が果たすべき地域貢献を広げるように努める。</p> <p>(イ)社会のニーズを踏まえた公開講座を ZOOM 形成と対面形式で各 1 回ずつ実施する。</p> <p>(ウ)全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」を UR 都市機構と千葉県内の地域で計画・実施する。</p> <p>(エ)歯科診療室に受診される地域住民の方を対象に「健康教室」を企画・実施する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>(ア)千葉大学病院の次世代医療構想センター長から、市町村支援事業についての講演をしていただく。</p> <p>(イ)公開講座の開催方法を工夫し、前年より多くの方に参加いただけるように計画する。</p> <p>(ウ)「ほい大健康プログラム」を UR 都市機構と共催で 3 回実施し、いすみ市とは共催で 2 回実施できるように検討する。</p> <p>(エ)地域住民の方に、各学科の特色を活かした健康教室を企画し 4 回実施する。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・ 達成事項</p> <p>① 千葉大学病院の次世代医療構想センター長から、「行政と連携した、大学の新しい役割」について対面でご講演いただき、FD(レベル 2)を開催し、概ね目標を達成できた。39 名の方に参加していただき、内容に関して、満足 66%とやや満足 32%で大好評であった。</p> <p>② 公開講座の開催案内を県民日よりと県内の関係施設にポスターを送付し、昨年度より約 1.6 倍の方に参加いただくことができた。1 回目の ZOOM86 名、2 回目の対面 62 名の参加で目標を達成できた。</p> <p>③ 「ほい大健康プログラム」を UR 都市機構と共催で真砂第一団地において、3 回実施することができた。また、いすみ市と共催でいすみ医療センターにおいて 2 回実施できた。両方も、参加者の方のアンケート結果で満足度が高く、目標を達成できた。</p> <p>④ 歯科診療室に通院されている地域住民の方に、各学科の特色を活かした健康教室を企画し 4 学科のプログラムを組み合わせ 2 回実施できた。アンケート結果では、好評をいただき概ね目標を達成できた。</p> <p>・ 評価結果の理由と改善策</p> <p>① 本学の重点施策「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献」に取り組む上で行政と連携する必要性について理解を深めていただけた。今後は、さらに他大学での社会貢献も参考に検討したい。</p> <p>② 公開講座を ZOOM 形式で実施した際、10 代から 70 代以上の幅広い年層の方に参加していただくことがわかった。また、対面実施では、高校生の方に多く参加していただけたことがわかった。今後、年層に合わせたテーマや開催方法を設定するように検討したい。</p> <p>③ ほい大健康プログラムを UR 都市機構といすみ市で実施したが、非常に満足度が高く、本学の社会貢献として、多職種連携の強みを活かしたプログラムの継続が必要であることが明らかとなった。今後、学内の実施体制を整え、どのように運用していくか検討したい。</p> <p>④ 対象は、歯科診療室に通院されている地域住民の方であるが、周知方法や、本学としての健康教室の位置づけを検討したい。</p>

・ 申し送り事項

「UR とのほい大健康プログラム」の研究を継続することは必要と考える。今後、学内の実施体制を整え、どのように運用していくか検討していくことが望まれる。いすみ市において、ほい大健康プログラムを開催した際に、学生さんの学びの場として活用していただきたいとの要望があったので検討すべきと考える。また、公開講座を ZOOM ウェビナーで開催する際は、リハーサルを行い、始まってからのトラブルをなくすようにすることが望まれる。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由) 県民のニーズを把握しつつ、大学として市民に適切な情報を発信し、地域貢献できている。また、コロナウイルスの感染状況が変化する中で、公開講座の開催方法など適宜変更し、目標達成に向けた活動ができている。引き続きよろしく願いいたします。

委員長：細山田康恵

総括委員長：大川由一

面接日：2023年2月24日

自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

自己点検・評価委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、学内の円滑な自己点検・評価を推進する</p> <p>②大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査等に対応して R5 年 3 月に認証の結果を得る</p> <p>③IR の機能を促進する</p> <p>④大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出する</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和 3 年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。 各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していく。 大学運営会議等から新たな依頼があった場合には、4 つの部会と連携して推進していく。</p> <p>②大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査等に対応する。</p> <p>③・IR コンソーシアムの具体的な活用を検討する。 ・卒業時調査や適宜実施される学生調査など、学内における IR の機能を果たす。 ・IR 部会において、教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を開始する。</p> <p>④大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出し、大学運営会議に提示する。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・ 達成事項</p> <p>①令和 3 年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。 各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していった。「教育研究年報」の発行時期については例年より遅れた。 学長より卒業生調査 (初回) の依頼があり、<IR 部会>により計画・実施した。3 月初旬までにデータ収集を行った。</p> <p>②大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査 (オンライン、追加訪問調査) に対応して、評価報告書 (案) において「大学評価基準を満たしている」と評価を得た。R5 年 3 月に最終結果を得られる予定である (3 月 3 日現在)。</p> <p>③IR コンソーシアムの具体的な活用を<IR 部会>の各委員で検討した。教務委員会からは教育の評価に活用することが示されたが、分析をして結果を提示するには至らなかった。 <IR 部会>で卒業時調査、卒業生調査を企画・実施し、学内における IR の機能を果たした。 教育研究年報のデータの集積に関して、IR 部会で検討したが、<教育研究年報作成部会>で検討することとなり、学科・専攻の量的データについて集約方法を提案し決定した。各委員会が担当する部分も含め、質的なデータについては継続課題である。なお、<IR 部会>では、各委員会が調査した結果など、集積しているデータについての INDEX 作業は継続して行った。</p> <p>④大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出し、大学運営会議に提示した。</p> <p>・ 評価結果の理由と改善策 上記「達成事項」に示した通り、①から④について目標は達成できた。 「教育研究年報」の発行時期が遅れたことについては、認証評価に伴う作業量が多かった影響であり、次年度からは修正できる見込みがある。</p> <p>・ 申し送り事項</p> <p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4 つの部会と連携して自己点検・評価を推進していく。</p>

<p>学科・専攻、委員会の重点施策の令和4年度目標の達成度から、学科・専攻や委員会の所掌について検証する（4～5月）。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された【優れた点】について、継続・発展させる。【改善を要する点】【今後の進展が望まれる点】については、＜自己点検・評価委員会＞で早急にスケジュール・責任部署の計画を立て、対応に取り掛かる必要がある。</p> <p>③＜IR部会＞により、卒業生調査の分析および結果の公表（卒業生・学生も含む）を実施する。IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表（学生も含む）する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行っていく。＜教育研究年報作成部会＞において、教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を開始する。集約したデータについて、IR部会のINDEXに含めるかどうかは＜IR部会＞に検討を申し入れる。</p> <p>＜自己点検・評価委員会＞において、教育研究年報の各委員会が担当する部分など、各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を行う。</p> <p>④重点施策の担当項目である大学組織に関する項目について、将来構想検討委員会でR5年度の担当（責任）委員会の再検討を依頼する。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>大学機関別認証評価受審への対応やIRコンソーシアムの活用のための他委員会との連携や、集積データのINDEX作業など計画的に進められている点は評価できる。IRコンソーシアムの活用方法や認証評価時の指摘事項への対応を継続的に検討されることが期待される。</p>
<p>委員長：西野郁子</p>
<p>総括委員長：石井邦子 面接日：2023年2月24日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉</p>

将来構想検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

<p>1 目標</p> <p>①千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する</p> <p>②社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する</p> <p>③保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する</p> <p>④自律的な大学運営に向けた検討を行い、本学の方針を明確にする</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画（丸数字は目標と対応）</p> <p>①今年度の各委員会・学科専攻の重点施策の目標・評価の点検とそのため体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月初に重点施策の担当（責任）部門等に今年度の目標と評価指標の設定を依頼 ・本委員会で各項目の点検担当を決定し、目標および評価指標の妥当性を検証。適宜、修正を依頼し、6月末に確定 ・2～3月に同様の手順で評価検証を実施 <p>②-1 教員懇談会の実施（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学で取り組んでいる社会貢献事業や健康政策に反映しうる研究を教員間で共有し、県立大学としての社会貢献への理解・関心を高めるとともに、今後の発展に向けた意見交換を目的として実施（9月頃を予定） <p>②-2 健康福祉部への取組報告会の実施（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部関係課の本学への理解・関心を促進するとともに、今後の取組に反映させるための意見交換を実施（11月頃を予定） <p>②-3 リーフレットの効果検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成・配布したリーフレットの効果検証として、配布後の行政や関係機関、職能団体との共同研究や委員・研修依頼などの件数を評価し、今後の方策を検討する <p>③健康福祉部で行われる「大学のあり方勉強会」と連動させ、本学に求められる機能充実の方策を検討する</p> <p>④法人化、ワンキャンパス化の必要性を整理する</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成事項（丸数字は、目標および具体的な活動計画と対応） <p>①4月に今年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備。5月に関係部門に目標・評価指標の設定を依頼し、点検・修正後、6月の全学運営会議で報告し承認を得た。1月末に関係部門に今年度の達成状況の評価を依頼し、委員会で検証した結果を3月の運営会議で報告する。</p> <p>②-1 9月5日（月）16:30～18:00 大講義室において「将来構想にかかる情報共有会」を開催。参加者数64名（教員60名 職員4名）。アンケートでは、県立大学の教職員として県のシンクタンク機能としての研究や社会貢献事業に関わる必要性を感じたという回答が83%得られた。</p> <p>②-2 10月25日（火）11:00～12:00 千葉県庁本庁舎において取組報告会を実施。参加者27名（健康福祉部14名、本学13名）。詳細については令和4年度紀要に掲載。</p> <p>②-3 リーフレット配布後の関係機関の反応は、現段階で把握できていない。</p> <p>③健康福祉部で今年度は「大学のあり方勉強会」は開催されなかったため、これを受けて本学の機能充実に向けた検討は行えなかった。教員懇談会についても、意見交換を行う予定ではあったが、本学の方向性を示すことは難しかったため、情報共有にとどまった。</p> <p>④法人化、ワンキャンパス化の必要性の整理については③の状況を踏まえて検討する予定であったため、進めることができなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果の理由と改善策

<p>目標①②に関わる取り組みは、上記のようにほぼ計画どおり実施することができた。特に、教職員との情報共有会は初めての試みであったが、アンケート結果から県立大学の教職員としての研究や社会貢献事業への関心を高める効果があることが確認できた。また、取組報告会において「Covid-19 が千葉県の高齢者に与えた影響」調査の結果について議論できたことは、本学のシンクタンク機能の役割を認識してもらう上で意義が大きかったといえる。しかしながら、③④の将来構想に関わる検討が、委員会において今年度も進めることができなかった。</p> <p>・ 申し送り事項</p> <p>令和5年度は、重点施策の開始から5年目となり評価の年となる。千葉県保健医療計画の評価も見据えつつ、令和6年度以降の目標設定を行う。</p> <p>教職員との情報共有会については、アンケートの結果を踏まえ、次年度は大学の将来構想に関わる意見交換の場とすることも検討する必要がある。県への取組報告会は継続実施が重要。</p> <p>大学の将来構想については健康福祉部と本学の執行部との協議が主導となるが、将来構想検討委員会がこれに対してどのように関与していくのか引き続き議論が必要。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>①②については目標達成のための活動が着実に実行できたが、③④については情報共有にとどまるなど検討することは難しかった。次年度に向けて本学に求められる機能充実の方策と自律的な大学運営に向けた検討および学外関係者との協議を引き続きよろしくお願いたします。</p>
<p>委員長：佐藤紀子</p>
<p>総括委員長：石井邦子 面接日：2023年2月23日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：北川良子</p>

総務・企画委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <p>①優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子、AV 機器等）の整備</p> <p>②令和 5 年度に向けた予算要求</p> <p>③整備計画にもとづく学習環境整備の進捗状況の検証、教員および学生による継続的な評価</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和 4 年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。</p> <p>②令和 5 年度の予算要求は各学科専攻に対して行った意向調査及び令和 4 年度に策定した長期整備計画に基づき行う。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①昨年度予算要求どおり、全学整備備品として 505 万円の予算が決定されたことから、令和 4 年度第 1 回委員会にて優先順位を決定し、当該順位に基づき備品を整備できた。 ②全学整備備品及び各学科・専攻等の備品についての令和 5 年度当初予算要求は、令和 4 年度第 1 回委員会にて学内照会について承認された後、令和 4 年 4 月 1 2 日に学内へ依頼を行った。その後、回答を取りまとめ、第 3 回、第 4 回委員会にて審議し、委員会として当初予算案を決定することができた。 ③夏頃より幕張キャンパス大講義室のプロジェクター 2 台中 1 台が故障したため、スイッチャー部分の交換も含めてプロジェクターの整備について審議した。特に、プロジェクターの台数について審議し、現在の 2 台から 1 台に減らし、スクリーンも大画面 1 枚に変更することとなった。しかしながら、業者からの見積もりでは 1,200 万円程度と高額になったため、事務局より来年度以降の整備となる旨、報告があった。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>整備計画に基づき、学内環境の整備及び予算要求等を目標どおり行うことができた。 大講義室のプロジェクターは来年度以降の整備となるため、事務局と情報共有し、使い勝手が向上するように整備する。</p> ・ 申し送り事項 <p>大講義室のプロジェクターの整備。各教室の机・椅子等は長期計画を立てて整備する。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>学内環境の整備、調査に基づいた予算請求など、目標どおり実施された。 次年度以降、大講義室のプロジェクターの対応、長期的な整備計画を進めていただきたい。</p>
<p>委員長：山本達也</p>
<p>総括委員長：石井邦子 面接日：2023 年 2 月 22 日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子</p>

広報委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受験生の獲得につながる広報活動の推進 2. 産学連携活動につながる研究力の発信 3. 広報活動の基盤整備
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作成手順や予算使途計画を検討し、前年度より早い時期に大学案内を作成する(資料請求数)。with/after コロナにおいて効果的な対面型および遠隔型のオープンキャンパス、大学説明会・キャンパス見学を実施する(来場者数、実施数、アンケート)。新入生へのアンケートを実施し、広報活動の評価・見直しを行う(検討結果)。 2. HP 上に教員の研究活動の紹介のページを作成するとともに、SNS による研究成果の広報を行う(HP 改定状況、閲覧数)。新たな広報活動の企画立案と予算化を行う。 3. 大学説明会 Q&A を含む広報媒体を更新する。
<p>3 目標達成度(自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <p>目標 1. 大学案内 2024 はデザインの変更が実現し、納期も 6 月上旬と早まる見込みである。対面型のオープンキャンパスを再開し、2 日間で参加者は 1,563 名であり、来場者アンケートでは満足度も高かった(とても満足 70%、満足 23%)。大学説明会には 80 回参加した。アンケートの分析結果から、新入生は主に「受験情報サイト、ホームページ、高校の先生の話」で本学を知り、「大学案内、ホームページ、高校の先生の話」で入学動機を高めたため、大学案内の重要性が見出されたことからデザインや掲載内容の充実につなげた。</p> <p>目標 2. 本学の特徴的な研究を紹介するページの作成について検討し、大枠を決定した。次年度に新たに作成する広報冊子の予算を計上できた。</p> <p>目標 3. 効率的で安全な情報発信を目指し、SNS 配信時のチェックリストを作成した。広報活動に関するグランドデザインをふまえた活動と役割分担、手順書を作成した。</p> 評価結果の理由と改善策 <p>大学案内 2024 は納期だけではなく、デザイン変更の課題も解決できた。大学案内 2023 の資料請求数は 692/前年比 72.9%であり、前年度の前年比(63.0%)より改善した。広報活動はコロナ前に戻ったが、オープンキャンパス(R 元;参加者 2500 名)、大学説明会(R 元;105 回)とまだ少ないため、さらなる活性化が必要。新入生アンケートからホームページを充実させる必要性が見出されたので、予算と改善のための方策を検討する。オープンキャンパス参加者アンケートと新入生アンケートの回収率が低いため、実施方法を変更する。</p> 申し送り事項 <p>オープンキャンパスの来場者の増加。受験情報サイト、ホームページでの広報の充実のための方策と予算の検討。ホームページと広報誌による研究活動の情報発信。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>大学案内などを変更し、受験生・その保護者に大学の魅力を発信できる媒体になっている。また、オープンキャンパスも対面となり、数年ぶりに活気のあるオープンキャンパスが実施できており、目標に向けた活動ができています。次年度も引き続きよろしくお願いたします。</p>
<p>委員長：小宮浩美</p>

総括委員長：石井邦子
面接日：2023年2月24日
自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

衛生委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

1 目標
1) 職員の危険及び健康障害を防止するための基本対策を策定し実施する 2) 職員の健康の保持増進を図るための基本対策を策定し実施する 3) 公務災害の原因及び再発防止策で衛生に関する対策を実施する
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) 産業医および幕張・仁戸名キャンパスでの安全管理者の設置 2) 産業医・安全管理者による定期的な構内巡視とそれに基づく改善。 3) 学生・教職員に対する新型コロナ対策の策定と実施 4) 職場の心のケアの増進（ストレスチェックとフィードバック）
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ●宗雪産業による定期的な構内巡視の実施 ●安全管理者として幕張キャンパスでは荒川先生（歯科衛生）、仁戸名キャンパスには山本先生（作業療法）による安全管理と巡視の実施。 ●衛生委員会にて、構内の労働衛生上の問題の把握と改善の討議。 ●新型コロナ感染対策として、COVID 対策会議とともにマニュアルおよびDXによる報告制度を通して、機動的な感染対策を実施。 ●学生委員会とともに学生・教職員への新型コロナ感染症対策としての情報提供。 ●ストレスチェック実施と高い受診率 ●職員対象に対してメンタルヘルスケアの研修会の実施。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>労働衛生環境は比較的保たれており、近々の課題である新型コロナ感染対策も有効に行われている。</p> ・ 申し送り事項 <p>引き続き、安心安全な職場環境の保持と、職員の健康増進をはかる。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 (理由) 安全管理者の設置や学生・教職員に対する新型コロナ対策の策定と実施について計画通り進められている。職員を対象としたメンタルヘルスケア研修会やストレスチェックの実施など、職員の健康の保持増進に向けた継続的な活動が期待される。
委員長：龍野一郎
総括委員長：石井邦子 面接日：2023年2月22日
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

危機管理委員会 活動達成状況点検・評価表 (2022 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「危機管理の手引き」を作成する。 2 「危機管理の手引き」に関する FD/SD を開催する。 3 防災訓練に関するアンケートを実施する。 4 優先順に危機管理マニュアルを作成する。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 危機に関する情報、危機管理マニュアルの作成や活用方法等について、教員が共有する「危機管理の手引き」を作成する。 2. 作成した「危機管理の手引き」の内容を周知する目的の FD/SD を開催する。 3. 実施する防災訓練後に、より意義のある防災訓練を計画・実施するために、防災訓練のあり方や実施方法等について意見を求めるアンケートを実施する。アンケート結果から次年度以降の防災訓練について検討する。 4. 「危機管理の手引き」から、危機管理委員会が司る危機管理のマニュアルを優先順位に応じて作成する。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <p>当初、「危機管理の手引き」は危機に関する情報、危機管理マニュアルの作成や活用方法等について、教職員が共有するものを作成し、大学運営会議に諮った結果、「危機管理の方針」としてまとめ、評議会の承認を得ることとなった。本方針は、2月13日 危機管理委員会の承認を得た。2月27日 大学運営会議に諮り承認後、3月23日 本学評議会に諮り承認を得る予定である(2月13日現在)。</p> <p>「危機管理の方針」について、教職員対象の FD/SD を予定したが、本方針は令和5年3月開催の評議会に諮ることになったため、令和5年4月以降の開催へ延期された。</p> <p>防災訓練に関する質問調査を実施した。火災に係る避難訓練について、実施の消火や救助活動と避難者に動きについて詳細な検討、地震、津波等の火災以外の防災訓練を行う等の意見が出た。</p> <p>危機管理マニュアル作成について、「危機管理の方針」の作成に時間を費やしたことから、新たな危機管理マニュアル作成に着手することができなかった。</p> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>令和4年度は目標2 FD/SD の実施、目標4 個別の危機管理マニュアル作成に着手することはできなかったが、危機管理に対処する本学の方針を示すことができるようになったことは、本年度の委員会活動は意義のあるものと考えられる。</p> <p>「危機管理の方針」について、当初は「危機管理の手引き」を作成して、危機管理委員会委員の中で危機の定義等を共有して、個別の危機管理マニュアルの作成をすることにしていた。作成する中で、危機管理に関して本学全体で共有する必要があることが分かった。また一度大学運営会議に諮った結果、「危機管理の方針」と改めまとめることになった。本方針が承認されると、今後の個別の危機管理マニュアル作成が共通認識のもと作成することができるようになる。</p>

防災訓練について、本学の災害等に係る対処法について検討し、必要な改善をしたうえで、その整合性を図る訓練を実施することが必要と考えられる、そこで、本年度実施した質問調査結果等をふまえて、防災訓練のあり方、災害時の対処法の検討、新たな防災訓練の実施等を検討、実施することを、令和5年度危機管理委員会に引き継ぐ。

・ 申し送り事項

- 「危機管理の方針」に関するFD/SDを、令和5年5月を目途に開催する。
- 承認された「危機管理の方針」をふまえて、個別の危機管理マニュアル作成を進める。
- 防災訓練そのもののあり方、新たな防災訓練内容について検討する。
- 火災における避難経路、避難方法の見直しを行う。
- 地震、津波に対する非難経路、避難方法の検討を行う。
- 災害時の帰宅困難者用の備蓄水等の備蓄に関する検討を行う。
- 避難時に用いる拡声器等の必要物品の検討を行う。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

目標達成に向けて着実に活動できたと考えます。今年度は「危機管理の方針」を作成しこれをふまえて次年度は「危機管理マニュアル」の作成を進めていくとのこと、引き続きよろしく願いいたします。

委員長：酒巻裕之

総括委員長：石井邦子

面接日：2023年2月22日

自己点検・評価実施推進部会：北川良子

人事委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

1 目標
1) 教員組織の定期的検証システムを確立する。 2) 新たな評価項目を組み込み、人事評価制度に基づいて評価を実施する。
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) (A) 5月時点での「教員組織の定期的検証」を引き続き実施する。(B) うち5年毎に行う各教員の授業負担調査を今年度実施する。(C) 基準を十分満たすよう人事組織編成の検討を行う。 ＜評価指標＞ 教員組織の検証評価項目と基準達成度で評価 2) 「教員業績評価票」に学内委員会活動及びシンクタンク機能に関する活動を含めて、さらに周知する。＜評価指標＞ 人事評価項目を組み込み実施×100=達成%
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
・ 達成事項 1) 教員組織の定期的検証システムを確立 (A) 令和4年度「教員組織の定期的検証」を実施し、概ね基準に達していると評価された。 (B) うち5年毎に行う各教員の授業負担調査を前年の2021年度について教務委員会に依頼して実施した。調査結果は大学運営会議に報告し、各学科・専攻長に伝えた。 (C) 人事組織の検討を行い、大学設置基準の教員人数、主要科目の教授・准教授担当割合を十分満たすため、理学療法学専攻教授を1名増（准教授1名減）、看護学科の准教授を1名増（講師1名減）とした。 2) 「教員業績評価票」に学内委員会活動及びシンクタンク機能に関する活動を含めることを一次評価者である学科・専攻長を通じて、さらに周知した。
・ 評価結果の理由と改善策 1) 目標通り「教員組織の定期的検証」および教員授業負担調査を実施し、概ね基準に達していることを明らかにした。加えて教員組織の一部変更により改善を行うことができた。 2) 委員会活動およびシンクタンク機能に関する人事評価に含めて実施することができた。
・ 申し送り事項 ① 「教員組織の定期的検証」を毎年5月に行い、教員組織の管理・点検を継続する。 ② 教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。（大学認証評価結果）
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要
（理由） 教員組織の定期的検証システムが確立され「教員組織の定期的検証」、「教員授業負担調査」の実施、評価をされている。 次年度以降、教育の質を継続的に保証する教員組織の検討、対応が期待される。
委員長：神田みなみ
総括委員長：石井邦子 面接日：2023年2月22日
自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

教員再任審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

1 目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教員再任審査において、審査方法に則って適正に審査する。 ・審査における点数化基準の明確化をはかり必要に応じて改訂を検討する。
2 目標達成のための具体的な活動計画
<ul style="list-style-type: none"> ・審査方法に従い審査を滞りなく実施する。 ・審査時に判断に迷う基準、項目の確認等に対する意見集約を行い、審査項目および審査基準等の修正を検討する。 ・申請時提出書類記載例の充実をはかる。
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 教員再任審査対象者（前期4名、後期5名）の審査を適正に実施した。 審査における点数化基準の明確化に向けて、審査項目の解釈や基準について意見交換を行い、審査に関する覚書を作成した。 「教育・研究活動等報告書」記載例にしたがった前期申請書類での不明瞭な点をふまえ、後期は例を増やして対応した。 ・ 評価結果の理由と改善策 委員による再任審査は、審査項目について点数化基準により実施した。審査のばらつきは作成した覚書に基づき委員会で審議して修正を行い、適正に審査を実施できた。 審査時に判断に迷う基準、項目の確認、点数化等に対する意見集約を行い、審査項目および審査基準等の修正について検討した（継続審議が必要）。 教育・研究活動等報告書記載例の提示により、申請書類の記載項目が整理され、業務効率化につながった。 ・ 申し送り事項 適正な審査を実施するにあたり、研究業績の審査基準が本学教員に求められる研究水準として妥当かどうか検討して頂きたい。また現行の再任審査対象期間では任期最終年の教育実績や研究業績が評価されないため、審査対象期間を検討して頂きたい。
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 （理由） 記載の不明瞭な点を改善するなど、再任を希望する教員にとって書類を記載しやすいように変更されており、目標達成に向けた活動が着実に行えている。引き続きよろしく願いいたします。
委員長：平岡真実
総括委員長：石井邦子 面接日：2023年2月24日
自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 活動達成状況点検・評価表（2022年度）

1	<p>目標</p> <p>学生、事務職員及び教職員に一般知識・教養としてハラスメントを周知するとともに、大学内で発生したハラスメントの実態を把握する。</p>
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの見直し</p> <p>2) 外部委員又は講師による研修会の実施</p> <p>3) キャンパス・ハラスメント相談員による相談実証状況の把握</p> <p>4) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施</p>
3	<p>目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> 1) 前任者より引継いだ相談員マニュアルの見直しに着手できなかった。 2) 山口祐輔 弁護士（外部委員）と前田昭子 ハラスメント外部相談員を講師に迎えて、12月26日にFD・SD教職員向け研修会（レベル1）を実施した。前田昭子 ハラスメント外部相談員を講師に迎えて、3月20日にFD・SD相談員向け研修会（レベル3）の実施を予定している。 3) 年度別に過去の相談件数を集計した。 4) 学生及び教職員に対して、2月16日から3月3日にキャンパス・ハラスメントに関するアンケート調査を実施した。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> 1) 相談を受けた相談員とキャンパス・ハラスメント防止対策委員の連携が取れていない指摘を受け、委員会は専門部会を設置し、相談案件の概要等を委員会に報告する枠組を整える。 2) 外部相談員の意見を反映し、相談員マニュアルの見直しやFD・SD研修会の実施を通じて相談員の技術向上をはかる。 3) 委員会活動を活性化し、相談者が相談しやすい体制を構築する。 ・ 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> 1) 総務・企画委員会で外部講師を招へいする予算を申請し、FD・SD研修会の継続的な開催が望まれる。 2) 相談の概要を把握、FD・SD研修会の立案及びアンケート調査を担当する専門部会の設置が望まれる。 3) 外部相談員と連携して他大学の状況を調査し、相談員マニュアルの見直しに着手することが望まれる。
5	<p>自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要（理由）</p> <p>教職員や相談員を対象とした外部委員講師による研修会の開催や過去の相談件数の把握、学生や教職員へのアンケート調査により、ハラスメント防止の周知や分析を行っていることは評価される点である。相談員マニュアルの見直しは次年度以降に期待される。</p>
	<p>委員長：菊池裕</p>
	<p>総括委員長：石井邦子</p> <p>面接日：2023年2月22日</p>
	<p>自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉</p>